

(檜山) 配當原則云ふ話があつたので。

(坂内) 二時間云ふものはなんかやらなければならぬ云ふ事になるのですね。自由遊びでやつた事でもいけな
いのですか。

(倉橋) これはいろいろ御研究の結果で、澤山教へられるところがあつたと思ひますが、兎に角此處に一つ明かなことは唱歌遊戯を第一におき、手技を第二におき談話を第三におき觀察を第四位に保育項目を配當する一つの立て方がある譯ですね。そこで市のきめ方さいふここから離れて、問題を保育項目の一つへ持つてゆきませう。これが、實は大に大事なことですからね。土川さんに一つ幼稚園保育としての唱歌遊戯云ふものがさう云ふものであるか、或は何うでもなるものか。従つてそれを何うして行くか、別格に扱つていゝか、そこらの點を伺ひませう。

○遊戯に就て

(土川) 何時鐘先が向くかと思つてゐたら、えらい所をもつて來られました。(笑聲)

私は自分の幼稚園に於きまして回数で分けて豫定は立て居ります。それで私はこの豫定を立てる前にこの項目の中のそれらの目的を色々考へまして、手技が一番多くまつてゐます。私は別に唱歌遊戯を特別に多くする理由は見付かりません。子供を纏める爲にすぐ歌はしましたりする人がある。唱歌が下手な人程ね。

(倉橋) 至言ですな。

(土川) 自分の趣味の傾向によつてその項目に非常に片寄つて了ふ。それを私は分けて居りますが。併し兎に角、保育ミ子供の生活との關係を考へて行くミ、手技が一番重いのミ斯う考へて、それに重きをおき、唱歌は三十分づつ一週間二回づゝ位です。但しその時は本當に唱歌を唱歌として見て行く。曲の氣持や緩急も表はせる様にして、子供の感情を養つて行き度い。斯う云ふ點が随分缺けてやしないかと思ふ。自分ではそれを考へてやつて居ります。唱歌なきは一週に二回遊戯は三回にしてそしてその中に皆な入れてやつて居ります。手技が四回、遊戯が三回、唱歌が二回、談話が二回、觀察が一回斯う云ふ豫定を立て、おい

てそして子供の氣持によつて多少の變更はして参りますけれども、まあお話の様に大體これによつて片寄らない様にします。斯う云ふ様に私、唱歌遊戯を特別に多くする理由は何處にもないを考へて居る。

(倉橋) その三回云ふ遊戯は？ 唱歌は少いが、回数
は少いが嚴密にしていらつしやる。それは私は或意味に於て御同感と思ひますが、遊戯の方は何うなつて居りますか。三回ではあるがまあ極く露骨に言へば、他のものは生活、これから始まりちやん／＼と拍子木を打つたりしなくても所謂先刻（つう）のする／＼の様にも引張つて行けるのですが、遊戯だけは其處が違ふ様に我々思つて居るんですが。さう云ふものでせうかね。する／＼遊戯がありますかな。

(土川) する／＼遊戯が大變いゝんです(笑聲)。私はそこに大に意を用ゐて居ます。遊んでゐる間から子供がスキップを始めて一つの輪に習慣的になつて行く。其處で遊戯を入れるとするミ、子供が生活ミしてやつて行く、ミ云ふ様なその時の子供の顔はいゝですね。お部屋から一組がずつミマーチで這入つて行つてピアノの音調によつて何かや

るさいふ時よりね。子供の氣持ミしてする／＼行く方が大變にいゝと思ひます。そこでなるべくする／＼にしたいのですが、さう／＼するするばかりでやれない場合があるものですから、已むを得ず「お遊戯しませう」云つて……。

(倉橋) 一體さうなんですけれども、蕎麥のうま味ぢやないが、さうしてもする／＼にあるんだけれども、それだけでは何で、海苔だの葱だの、時に鶏肉だのちく輪だのが入つて居たりして、する／＼ばかりでは扱へない保育項目が多いでせうね。

(土川) 多いです。

(倉橋) 今の土川さんのお話を伺つて居るミ、先生がいつても大きい人に教へていらつしやる初めから藝術的に纏りのついた遊戯、あれをさういふ具合にそこへ合致させてゆかですかね。それにしても、土川さんから斯ういふお話を伺ふミ大いに發明する所あるですね。次に渡邊さん。八王子も随分御遠方ですが(笑聲)いかゞですか。大森ミ八王子……。渡邊さん。

(渡邊) 私は至つて勝手に自由にやつて居ります。

(倉橋) 自由にやつて居る間に遊戯なんかは？

(渡邊) 矢つ張決めてやります。

(堀) 先刻、東京市のきめで遊戯のところに色んな話が
出たのですけれども、綱引、球投げを競技で遊ぶのも入
るのでか。

(檜山) その遊びは子供がしようと言つてする場合が多
いので、そんな事で時間は多くなつたのです。

(倉橋) 又其處に話がかへりますよ、さうするに自由遊
びの中で多く行はれて居る事ですか。

(檜山) あの中には自由遊びと云ふものは、別に書き出
してあるのでございますけれども、自由遊びの時は数へ入
れてない筈でございます。

(堀) それですすね。これはですね。一組が一つ纏つて
綱引をするのは遊戯に入れて、一組で色んな事をする、し
ないものもあると云ふ時は自由遊びとしたんではないでせ
うか。

(檜山) 大體さうでございます。

(堀) それではつきりました。

(倉橋) あの幼稚園保育項目の中に於ける唱歌と言ひ遊
戯と云ふものは唱歌を使はない遊戯はない。遊戯は唱歌を
使ふと云ふので唱歌遊戯と云ふのでせうけれども、保育項
目で特に遊戯と云ふものは何ういふのでせうか。

(土川) 私は、設定的の様になりますけれども、綱引き
などは唱歌遊戯として居りませぬ。鬼ごつこなども自由遊
びの方に入れて行く方がいゝかと思つて居ります。

(倉橋) なんですな。藝術的とか何とか云ふ事は別とし
て一つの纏りも云ふ言葉は強過ぎるが、組立と言ひますか、
コンストラクションが這入つて居るのが保育項目の遊戯で
せうな。ジャンケンをして二列に分れて何かして居るでせ
う。別の色々な違ふ遊びの中に出て来る……。これは遊戯
の中に這入らないと考へていらつしやるのですか。

(土川) 這入らないと云ふよりも入れない……。

(坂内) 綱引なども……。子供は當り前の事をして居て
は面白くない。規則によるものを規則によると滅茶苦茶に
してしまふ。さう云ふ時に規則的にさせなくてはならない。

させたいと思ふものもあるのです。でもその時に大人が這

入つて嚴格にさせる云ふ場合は何うしますか。矢張、自由遊び、綱引にしても人数もきちんと同じにして、子供は人数なんか構はず、私はこつちがいゝゝ…何うしても大人が這入つて居りませぬ、規則を守る事が出来ませぬ。さう云ふ時は遊戯の時にさせた方がいゝと思ひますが。

(倉橋) 遊戯の時にミ仰有るが、時は構はない。

(坂内) 時は構ひませぬが、時か回数が喧しいので。

それを入れる云つた所で…。

(倉橋) 役者が芝居で踊つて居る間に一寸、頭、かいたりしたら可笑しなものです…。

(坂内) 大人が這入つてさせますけれども、子供の気分云ふものを育て度い時もございますが。

(水野) 聴覺の練習ですものなごは大體この遊戯でやる方の。そして折紙なんかの時、あつちは何時もやつて居る遊戯を始めるものもあり、又中には綱引をやるものもあり、分れて場所を始めるものもある。それを適當に先生が子供を入れて参ります、やりいゝ様に補助して行く。さう云ふ風にしてやつて行つて僅かの短い時間でありませぬ。

が、自分では毎日唱歌遊戯に、そして斯うその間に云ふ風にして自由の時に、斯う云ふ風にしたのがいゝと思ひます。

(倉橋) 矢つ張根據は取扱ひ上その目的を、我々として目的を達する事が出来る様なものだけを遊戯として、後は勝手に任しておく。

(堀) その問題に就ては小學校の方は、遊戯ミ競技ミ體操ミがあります。低學年は遊戯に競技も體操も這入る。詰り正確には出来ない。本當の競技になつて來ない。それで低學年では競技に屬する様な事やつて居りまして、所謂競技云ふ立場でなく遊戯の材料としてやつて居る。

(坂内) 其處に含まれて居る規則なんかは。

(堀) 段々規則正しいものに。始めから規則を守る云ふ事でない。だから遊戯ミしてやつて居つて、それが段々進化して來るのです。

(坂内) 何年位から規則を守る…。

(堀) 小學校時代では殆ど競技に這入らない。

(坂内) 運動會に致しまして、矢つ張「用意ドン」ミ規

則を守つてやつて居るのですか。

(堀) さう云ふのは低學年の方では喧しくない。

(坂内) 幼稚園では規則的な競技云ふものは

(堀) 競争遊戯は競技じやない。だから競争遊戯、遊戯の中に競争を基にしたものがあつて。競争をする以上は一定の規則が出て来る運動、それに合して行く云ふ事になる。

(坂内) 例へば椅子まりにしましても規則がなしに滅茶滅茶にする事はございませぬが、子供のみの規則には合して行く。

(堀) さう云ふ場合には本當の所謂本當の自由の遊びでなく矢張競争を目的とした遊戯にして。

(留岡) 矢つ張先程坂内さんの仰有つた様に、綱引にしても自由遊びに入れないで、先生は遊戯の中に入れ度いさ仰有るのでせう。

(坂内) 其處で自由遊びする時でも大人が交つて椅子まりなんかおやりになつて、……實際は先生おやりにならないかも知れませんが(大笑)……先生の競技云ふ定義が

解らないのですが。

(堀) 競技は矢張最も複雑な規則があつて、絶対服従で。

(坂内) 東京市の批評はしない譯でございませうけれども

(倉橋) 東京市に行く前にお盆(お汁粉)に行きませうか。

○觀察に就て

(倉橋) お汁粉まつしよに。堀さん色々難しい事は別として觀察が一時間になつて居ますが、いゝでせうか。

(堀) 僕は觀察として回数に於て三十分なり一時間の觀察をやる人は考へてないだらう。要するにまあそれは一つ。これは一時間—小學校の子供に一時間やつたら大變。

(倉橋) 回数にしても時間にしても、他の保育項目に比して觀察が一番少い。

(堀) それはその方がいゝだらうと思ふ。

(柴田) 白根さんの仰有つたのミ東京市と同じと思ひますから、凡ての氣持が結局其處に行つて居るのではないで